

案件3(1)

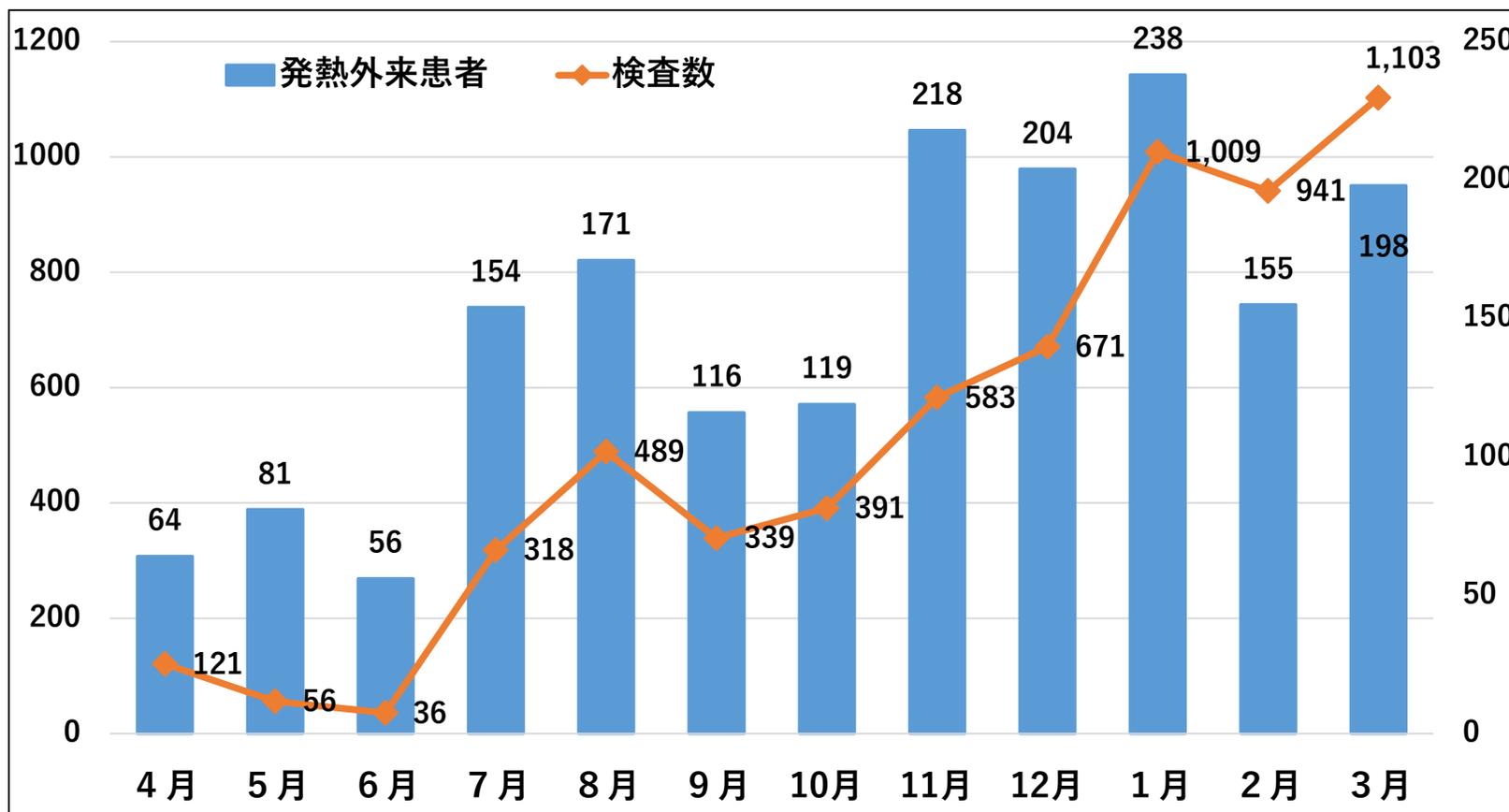
令和2年度の経営状況及び

令和3年度の取り組みの基本方針について

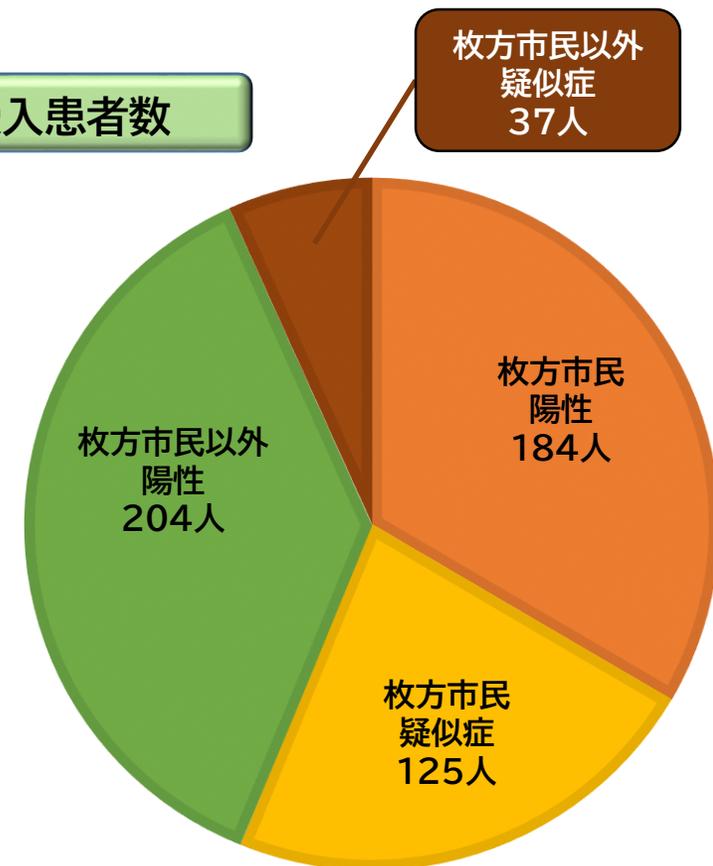
令和2年度の取り組み

新型コロナウイルス感染症への対応

発熱外来患者と検査の状況



受入患者数



R2.4月～R3.3月
陽性患者 388人、疑似症患者162人
計550人

令和2年度の取り組み

下肢機能再建センターの開設

関節の痛みなどによって仕事や日常生活に支障を来している方が、“**元気に歩ける**”イキイキとした暮らしを取り戻すため、股関節の手術を主軸とした専門的な医療を提供

7月
オープン



地域医療支援病院の承認

地域の診療所
(かかりつけ医)



信頼関係の強化

医療機能の役割分担

市立ひらかた病院
(地域の中核病院)



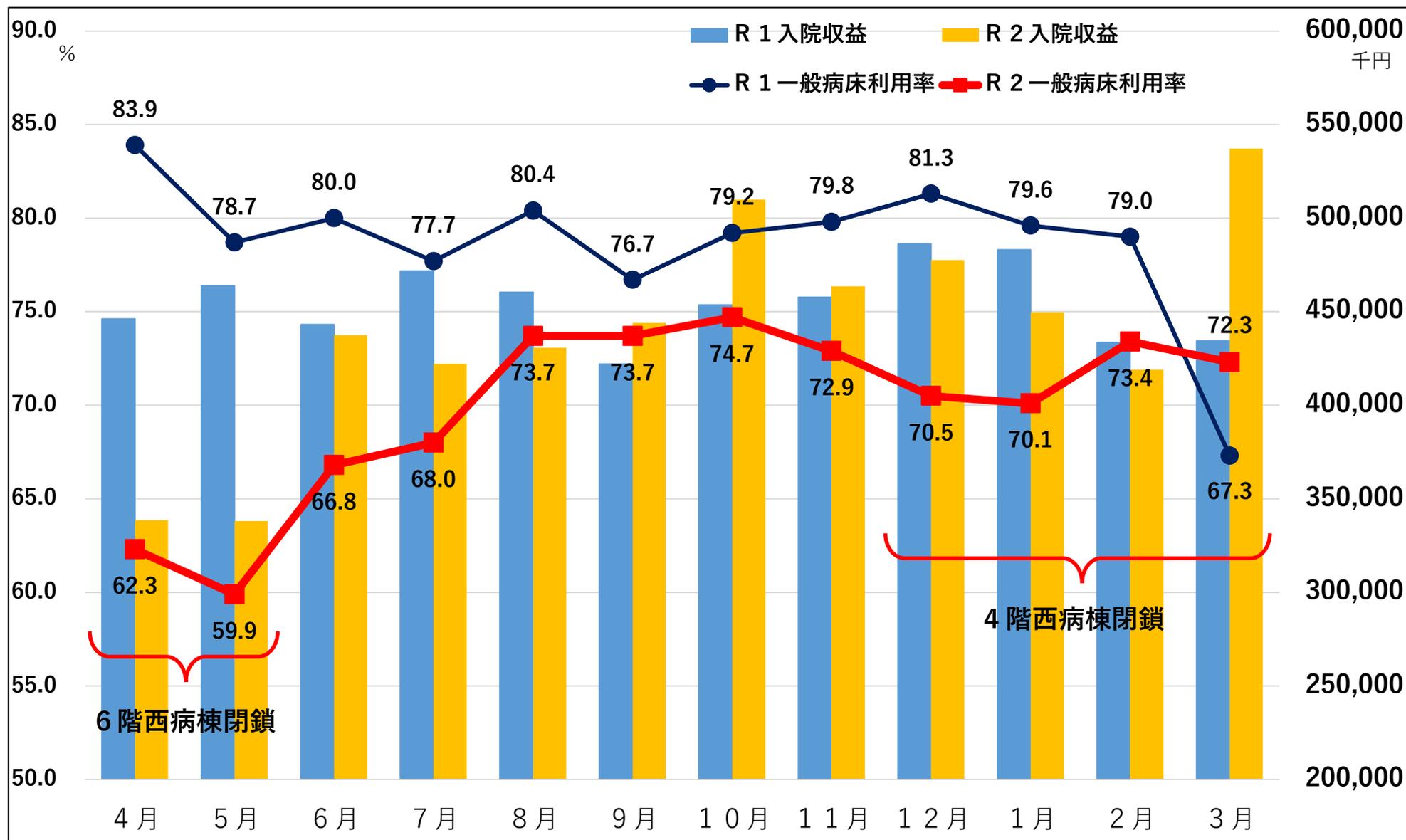
令和元年度：紹介率 54.0%
逆紹介率 78.7%
令和2年度：紹介率 65.1%
逆紹介率 96.5%

地域住民の皆さんに適切な医療を
地域で一体的に提供する環境整備が図られる

令和3年3月10日
大阪府医療審議会で承認

令和2年度の業務状況

入院



病床利用率

H30年度 78.0%
R元年度 78.6%
R2年度 69.8%

前年度比

▲ 8.8pt

入院収益 (月平均)

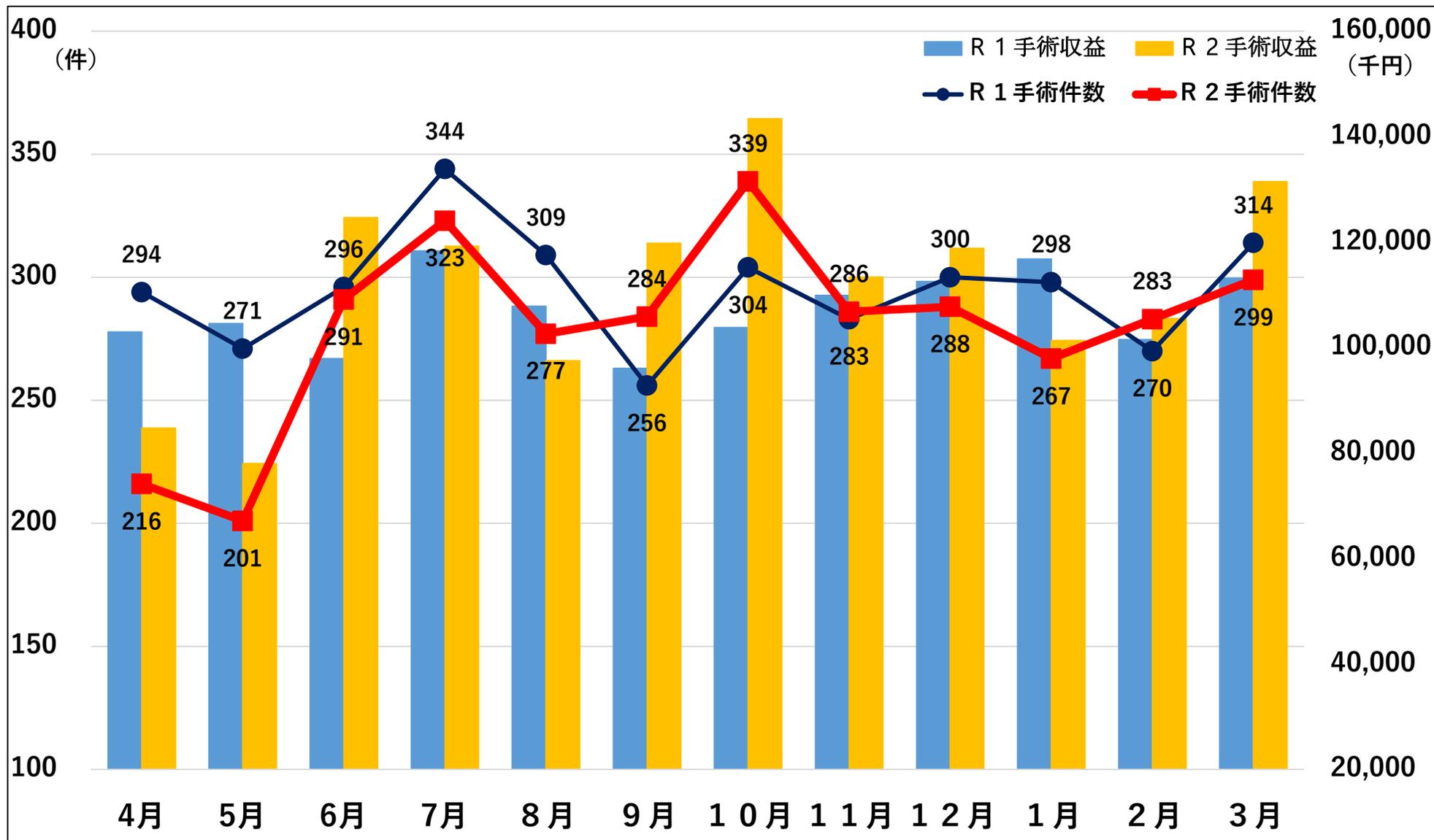
H30年度
438,365千円
R元年度
454,302千円
R2年度
438,356千円

前年度比

▲ 15,946千円

令和2年度の業務状況

手術



手術件数 (月平均)

R元年度 288件
↓
R2年度 280件

前年度比
8件の減

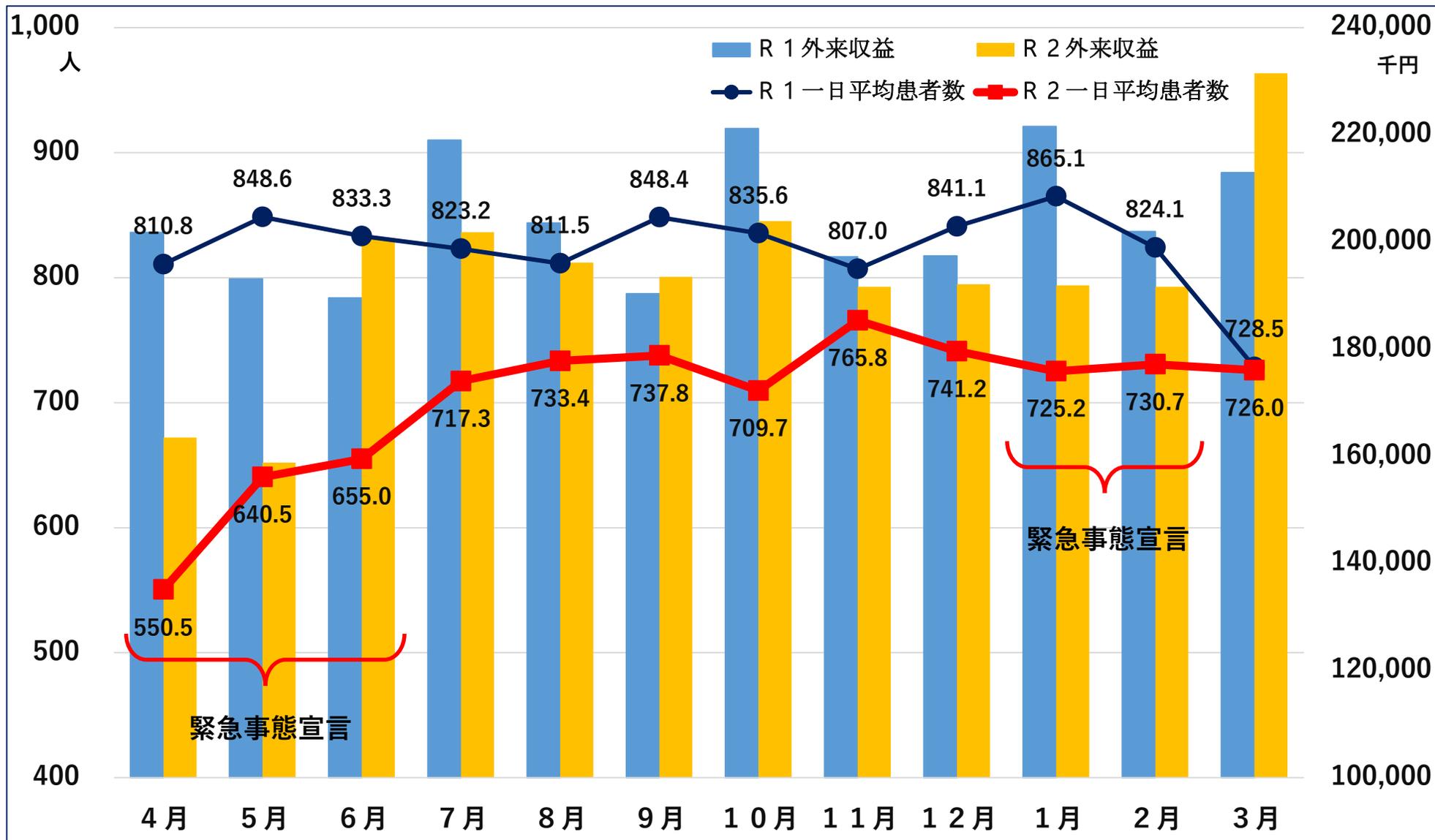
手術収益 (月平均)

R元年度
107,121千円
↓
R2年度
111,487千円

前年度比
4,366千円の増

令和2年度の業務状況

外 来



1日平均患者数

H30年度 809.3人
R元年度 823.7人
R2年度 702.1人

前年度比

▲121.6人

外来収益 (月平均)

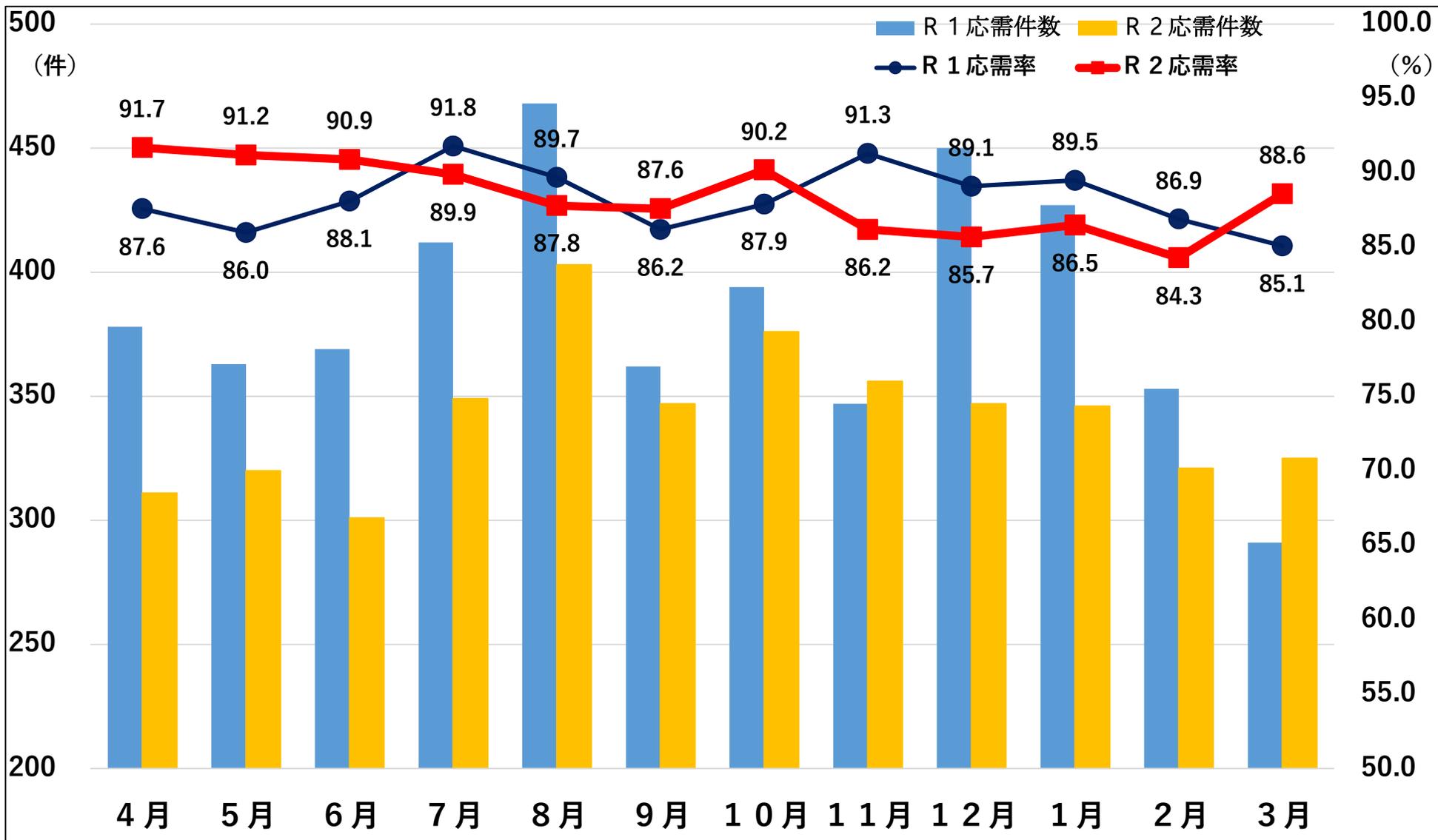
H30年度
187,566千円
R元年度
204,145千円
R2年度
192,962千円

前年度比

▲11,183千円

令和2年度の業務状況

救 急



応需件数(月平均)

H28年度 248件
↓
R元年度 385件
R2年度 342件

応需率(月平均)

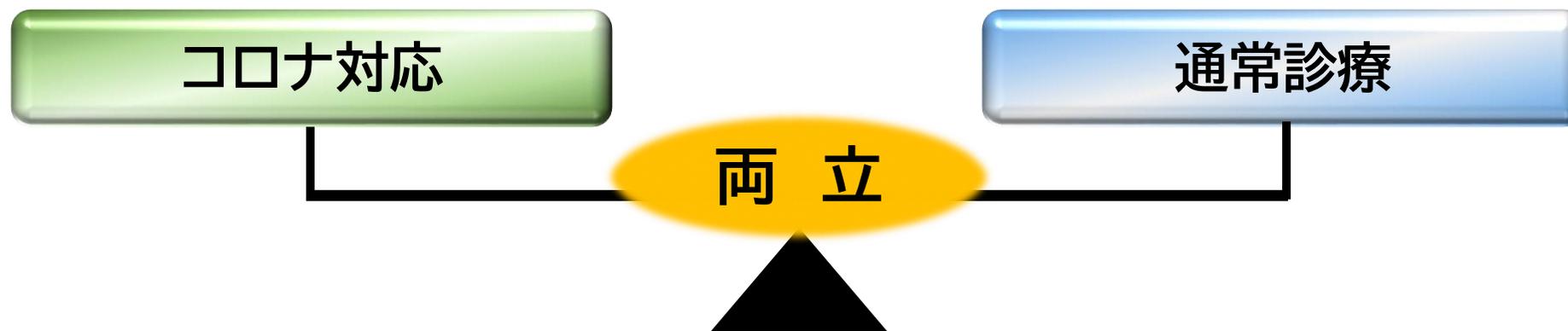
H28年度 68.3%
↓
R元年度 88.3%
R2年度 88.3%

救急依頼件数が
減少
応需率の水準は
維持

令和3年度の取り組みの基本方針について

令和3年度の基本方針

「コロナ対応と通常診療の両立をはかる」



Withコロナ、Afterコロナ年度における、地域の住民や医療機関との良好なコミュニケーションに基づく患者サービス、経営の向上

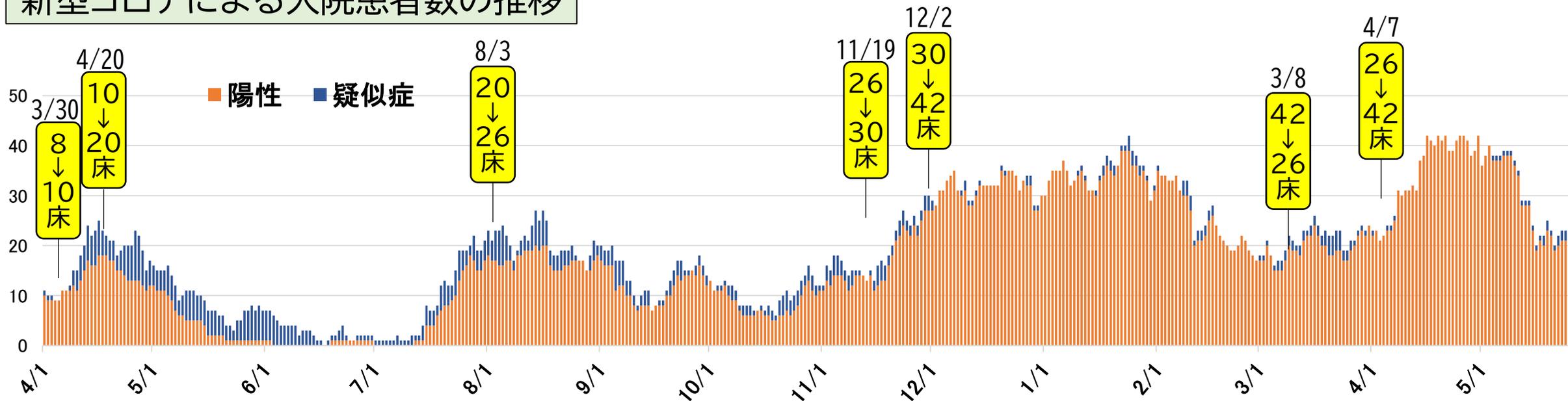


病院の存在価値を高める

新型コロナウイルス感染症への適切な対応

重点医療機関としての役割を果たすべく、適切に医療を提供していきます

新型コロナによる入院患者数の推移



あわせて取り組んでいく

● 患者さんや職員の命を守るため

● 新型コロナへの対応が長期に及んでいることを踏まえ

● Afterコロナを見据え

引き続き感染対策の徹底

職員へのメンタルヘルスケア

課題整理等、次に活かせる検討

診療を充実させるための取り組みの推進

診療体制の充実の検討

急性期病院として役割を果たすための高度な医療機能導入の検討

救急患者の受入れ促進

収益改善に向けた方策

各部署への目標設定及び進捗確認

新たに『診療報酬改善委員会』を設置

経営コンサルタントの
助言を受けつつ実施

“選ばれる病院”となるための新たな取り組み

詳細は
案件3(2)

新たな情報発信事業の開始

ICTを活用した患者サービスの向上

地域連携のさらなる強化

詳細は
案件3(3)

柱のポスター 2021年4月

基本理念:心の通う医療を行い、信頼される病院

- ★地域にとって必要な病院
- ★患者にとって選びたい病院
- ★職員にとって誇れる病院

「コロナ患者への対応と 通常診療の両立」

感染症指定病院として、これまでに培った
スキルを武器に、職員と地域を護る！

6つの取り組み

- 1. 断らない診療**
診療所からの紹介患者は断らない
- 2. 地域連携の推進**
紹介率70%、逆紹介率90%、
救急入院率45%達成
- 3. 患者サービスの向上**
一人一人に笑顔で挨拶
- 4. 目標値の達成**
病床稼働率80%、診療単価10%UP
手術件数10%、内視鏡件数10%UP
2020年度対比
- 5. 感染対策の徹底**
職員・患者の命を護る
- 6. 明るく元気な職場作り**

新たな経営計画の検討

令和3年度に終期を迎える「市立ひらかた病院改革プラン(第2次中期経営計画)」について、国の動向を踏まえつつ、**地域医療構想(※1)**における議論や**医師の働き方改革(※2)**などの医療を取り巻く中長期的な将来像も見据え、新たな経営計画の策定に向けた検討に着手します。

新型コロナの発生

新たなプランについて、国からは現時点で考えが示されていない

病院の将来像に大きな変化をもたらす可能性がある新たな要素が加わり、現時点ではその影響が不透明な状況

地域医療構想

地域において2025年に必要となる病床数を医療機能ごとに推計し、病床の機能分化と連携を進め、効率的な医療提供体制を実現する取組み

2025年には**急性期病床が過剰で回復期病床が不足**するとされている

地域医療確保の根幹とされていた5事業に、新たに新興感染症医療が加わった

救急医療

災害医療

へき地医療

周産期医療

小児医療

+

新興感染症医療

将来における急性期医療の必要性に関する考えに変化

その他、今年度に精力的な活動を要するもの

医師の働き方改革

本院は(B)水準を目指す

今年度中に
医師労働時間短縮計画
の策定が必要

病院機能評価の認定更新

病院機能評価とは？

病院全体の運営管理や提供する医療を(公財)日本医療機能評価機構が中立的、科学的・専門的な見地から評価を行うことで医療の質の向上につながるとされるもので、総合体制入院加算等、多くの加算要件となっていることから、受審は必須です。

令和4年3月に受審予定

全ての領域で、2日間にわたり詳細な審査があるため、年間を通し病院を挙げて膨大な準備が必要

医師については、2024年度(令和6年度)から、年間960時間、月100時間未満の規制となるが、一定の要件を満たす病院については特例の措置が講じられる。

